

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

熊倉山 - 静寂の山 -

熊倉山遠望



梅雨の合間の6月半ば、奥秩父・熊倉山（1427m）に出かけた。熊倉山は、鉄道の駅から近い割りに随分と山深く、味のある山である。その故か、昭和42年には埼玉国体の山岳競技会場にも選ばれている。

武州日野駅を10時15分に歩き出す。駅の近くにカタクリの里があり、いつかの4月、薄紫のカタクリの花の大群生に感激したことを思い出した。登山口から頂上までの標高差1100m、結構な登りである。日野の集落を出て素掘りの小さなトンネルを抜けると、寺沢川沿いの登山道となる。ほの暗い林の中を、沢を左に右に渡り返しながらぐんぐん高度を稼いでいく。川のせせらぎ以外に物音一つ聞こえない静かな山である。官舎跡という奇妙な地名を過ぎて、13時半、笹平に到着した。国体でテント村に使われた広大なササ原も、今は植林で立派なカラマツ林になっている。

笹平



最後
の岩稜
を詰め、
後はヤ
セ尾根
の県境
稜線をたどって、やっと熊倉山頂到着が14時。ここから奥秩父の峰々がくまなく展望出来るはずであるが、あいにくの空模様で、正面の三峰山の連山がうっすら見える程度だった。

帰路は小幡尾根を下って白久温泉に

山頂風景



向かう。結構急な下りが連続する。長い長い下りに膝が笑い、その上、途中から雨となり、傘を差しての難行苦行の下山となった。それでも途中、廃業したランプの湯宿・鹿ノ湯の廃屋群が、映画のロケにも使われるなどなかなか面白いと聞き、話のタネに道草して見物したりした。しかしその後は、谷



鹿ノ湯の廃屋群

津川沿いの面白くも何ともない単調な林道を、疲れた身体に鞭打ってただただ黙々と歩き、白久温泉到着はとっぴり日も暮れた17時半となった。周囲をすっぽり樹林が囲んだこの露天風呂は、何やら深山幽谷の趣きがあり、なかなか風雅である。そして湯上がりには、秩父名物のイノ

シシ鍋が待っていた。翌朝、近くの秩父三十番札所・法雲寺を訪ねた。名代の浄土庭園の、昨夜の雨に濡れたアジサイが見事だった。

